

令和5年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成 ～長久手市行政評価・外部評価～

中央図書館事業

教育部 中央図書館



1 事業概要

◆事業名

中央図書館事業

◆事業の開始の背景、経緯等

今から30年程前、人口増加が続く中、まちには図書館はなく、杣ヶ池体育館の一室を図書室として運営していた。市民からの図書館設立の要望を受け、平成2年、図書館設立構想委員会を発足し、平成4年6月に開館した。町制20周年記念事業の一つであり、市民の読書活動、憩い、集う場として図書館事業を開始した。

2 事業の実施体制

◆組織体制、人員

- ・ 正規職員：8人（うち司書2人）
- ・ 会計年度任用職員（月額）：9人
（内訳）
 - ・ 図書館勤務4人
 - ・ 小中学校へ派遣（学校連携）5人
- ・ 会計年度任用職員（時間額）：6人

計23人

3 事業の目的①

◆事業のゴール（市としてどうなるのか）

最終アウトカム

図書館法に基づき、図書等を収集、整理、保存、提供し、乳幼児から高齢者まで、生涯を通じて全ての市民が集う社会教育施設として読書環境が整い、図書館が読書に親しむことのできる「市民の交流の場」となる。

3 事業の目的②

◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

市民を始めとする図書館利用者

◆対象者がどうなることを目指すか

中間アウトカム

以下の事業を重点的に実施し、貸出点数や読書機会の増加を目指す。

- ・他部署との連携事業による児童サービス等の推進
- ・市民ボランティアとの協働による市民参加型の図書館運営を継続
- ・郷土行政資料の蔵書増加を始め蔵書の充実

3 事業の目的③

◆事業を構成する事務事業

	事務事業名
①	中央図書館運営事業
②	
③	

◆どんな活動を行うのか

図書等の収集、整理、保存、提供のほか、読書に関わる他部署等との連携事業や第3次子ども読書活動推進計画に基づく読書推進事業

3 事業の目的④

◆どんな活動を行うのか

学校連携事業

- ・中央図書館から司書派遣
- ・読書案内、調べ学習の支援他
- ・小学校の学級文庫へ本の貸出
(年間約8,000冊)



3 事業の目的⑤



◆どんな活動を行うのか

児童館連携事業

- ・中央図書館から児童館へ本の貸出(各児童館へ200冊ずつ)
- ・児童館図書室レイアウト調整協力



3 事業の目的⑥

◆どんな活動を行うのか



保育園連携事業

- ・中央図書館から読み聞かせ用絵本を毎月提供



4 成果指標

- ◆成果指標（対象者の変化をはかることができる指標）

市内利用者の貸出点数

- ◆指標の設定根拠

長久手市民への個人貸出の貸出総点数の増減が、長久手市民の利用状況を端的に表しているため

- ◆成果推移と成果目標

（単位：点）

R 2年度 実績	R 3年度 実績	R 4年度 実績	R 5年度	R 6年度
252, 490	340, 921	333, 308	333, 500	336, 800

5 事業のふりかえり

◆事業開始からの主要なエピソード

令和2年度は感染症対策による臨時休館等により貸出点数が減少した。令和3年度は対策として来館回数数を減らす目的でホームページからの貸出延長を無制限にし、貸出点数が増えた。令和4年度は通常開館に戻り、利用状況は回復している。

◆令和4年度の活動エピソード

- ・開館30周年の記念しおり配布、ワークショップや展示などを実施した。
- ・ジブリパークなどの話題性のあるテーマ本の展示などを実施した。
- ・図書修理ボランティアの活動が増え、前年度より修理冊数が約900冊増加した。(R3 1,500冊、R4 2,400冊)

5 事業のふりかえり②

◆令和4年度の活動エピソード

記念しおり



ワークショップ



折り紙展示



図書館のあゆみ展



6 課題分析①

◆目標達成状況（進捗状況は順調か）

感染前の利用に戻り、貸出点数は目標に達している。人口増加に伴い特に子どもへの読書推進により貸出点数の増加を目指している。

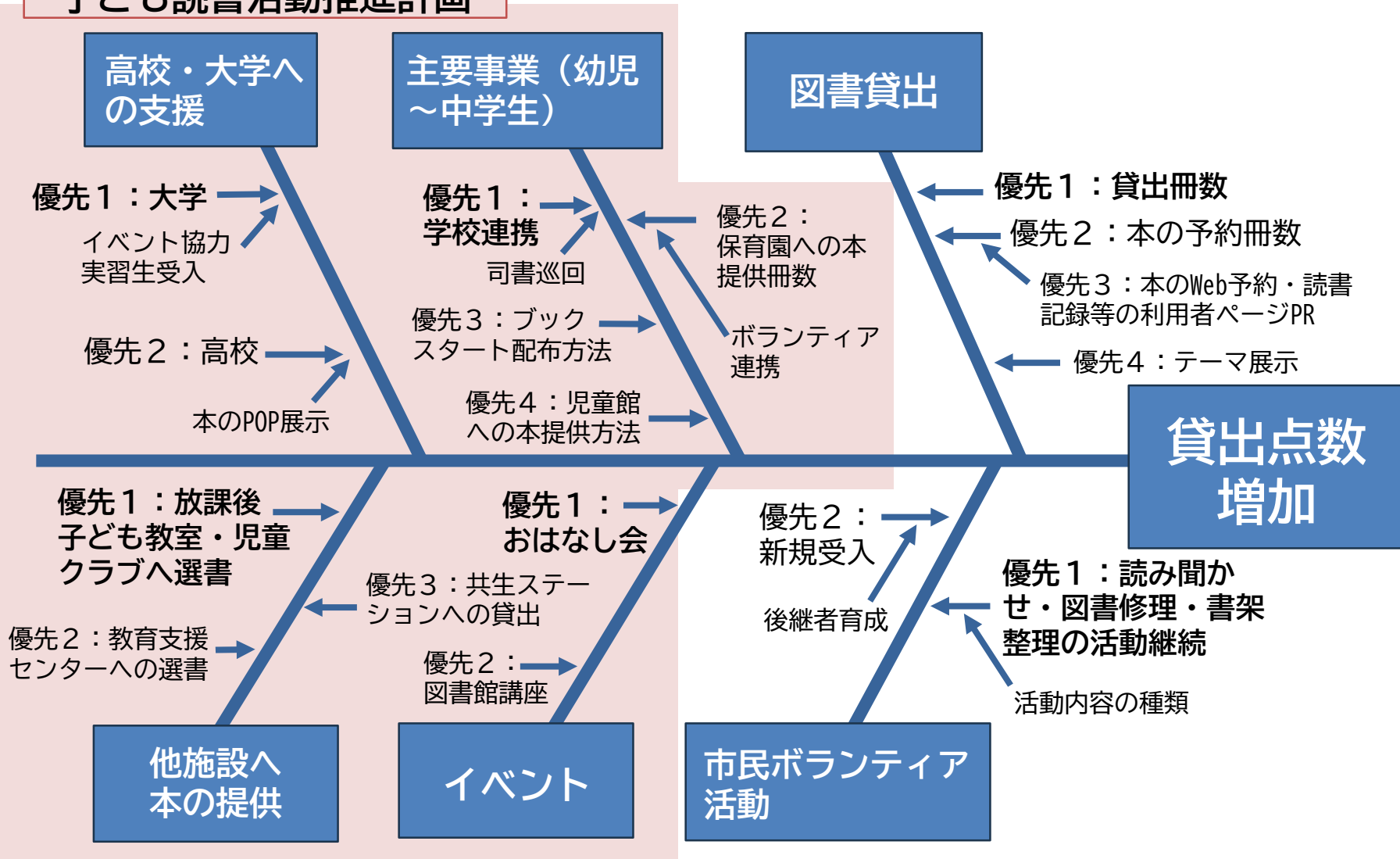
◆目標達成のために対処が必要な要因

改善ポイント

- ・ 図書貸出（1人あたりの貸出冊数を5冊→10冊へ増やす）
- ・ 子ども読書活動推進計画に基づく連携事業（学校連携はじめ幼児から中学生への支援事業の継続）
- ・ 市民ボランティアとの協働（読み聞かせ・図書修理・書架整理の活動継続）

魚の骨図

子ども読書活動推進計画



6 課題分析②

◆事務事業①の方向性

	事務事業名	事業の方向性	コストの方向性
①	中央図書館運営事業		

◆中長期の計画（改善ポイントを踏まえ具体的に記入）

- ・貸出・予約冊数など利用者サービスや、テーマ展示等の充実を図り、貸出点数増加につなげる。
- ・学校、児童館、保育園等との連携事業や、おはなし会など本を介したイベント実施など、子どもにとって読書が身近なものになるための事業を継続する。
- ・市民ボランティアの育成や新規受入を行い、ボランティア活動を継続する。

7 おわりに

◆外部評価実施者に助言をもらいたいことなど

子ども（特に中高生）の読書機会を増やし、本が身近にある環境を作ることで、将来的に中央図書館の利用者を増やすことにつながるため、学校や児童館等との連携に力を入れていきたいと考えている。今後さらに発展するための方策について助言をいただきたい。